

内務省の三所長



(伊藤百世氏)



北支建設總署の重要國策線上に進出した三浦七郎博士の後をうけて何人が下關土木出張所長たるか、同じく中支方面に重要使命を帯びて進出したる仙臺土木出張所長田淵壽郎氏の後任に何人がなるか等斯界注目の的であつたが、最近辰馬技監の下に於て明朗適切なる人事の決定が行はれ下關土木出張所長に伊藤百世氏、新潟土木出張所長に蒲孚氏、仙臺土木出張長に金森誠之氏が夫々任命され七月下旬各任地に出發された。

×

伊藤百世氏は大正二年東大土木科を出て、直に内務省東京土木出張所に入り、利根川第三期改修工事たる埼玉縣栗橋工區に於て技術生活のスタートに就いた。當時の所長は故人となつた中原貞三郎博士で栗橋工區主任は坂本助太郎博士であつた。

大正五年に仙臺土木出張所に轉じ、三池所長時代に鹽釜港修築工事主任として其事業を完成し、其後阿武隈川改修工事主任となり、次いで江合鳴瀬改修工事及び北上川改修工事等の主任技師としては伊藤氏の功績最も顯著なるものがある。次いで仙臺土木出張所の工務部長となつた。

昭和九年に青山士氏が内務技監に轉じた後をうけて新潟土木出張長となり今日に及んだ。

此間には裏日本交通路の難所たる親不知國道の改修工事を計劃實施して難所の薙を除き、國道としての面目を一新した。其他手取川改修工事、白山砂防

工事、立山砂防工事等注目すべきものであるが、其他河川道路、港灣等に於ても伊藤氏の努力されたものが少くない。

伊藤氏は仙臺、新潟等の雪深い地方の多年の技術官生活から、工業都たる文化の交錯地點下關に轉じたのである。關門地帶は西日本の樞軸たるものならず大陸進出の咽喉であり、技術的にも多事多端な處である。伊藤氏が北方に於て養成された富豊なる経験が西日本に於て又堅實なる成果をもたらす事と思はれる。

伊藤氏は松江中學から五高、東大を通じての野球選手として有名であり、テニス、スキー、碁、將棋に長じたるスポーツマンである。

×

蒲孚氏は明治四十四年に東大を出た林學士であり、大正三年には東大の土木科を卒へた工學士でもある。蒲氏は内務省に入ると直に東京土木出張所の所管たる日光稻荷川の砂防工事を初めとして、御勅使川、日川等の砂防堰堤を擔當して我國に於ける近代工法に依る砂防堰堤の嚆矢をなしたものである。其後大震災後の砂防計画たる早川、相模川、酒匂川花水川等の流域の砂防工事を完成した。

昭和六年に横濱土木出張所に轉じてからは狩野川改修工事の主任として其砂防計画及び治水計画を完成した。

昭和十一年に春木節郎氏が横濱土木出張所の所長

(蒲季氏)



(金森誠之氏)



となるや、蒲氏は其所の工務部長として今日に及んだ。

蒲氏は砂防と云ふ最もヂミな方面に終始獻身的な努力を捧げた特殊な技術家である。今回新潟土木出張所長としての榮轉は氏の多年の努力が報いられた最も明朗な人事である。

新潟土木管下には急峻な河川が多く砂防計画は最も多い處であるから蒲所長の最も適所とする處であらう。今回の神戸市の慘憺たる大水害の如きも砂防の不備が原因する處が多いと言はれる。都市と山間とは經濟的な輕重はあつても砂防施設には變りはないのであるから今後は砂防工事も益々多忙となる事と思はれる。

蒲氏は溫厚なる紳士であるが、日本工人俱樂部の創立に盡力し、砂防に關する著書としては最近發行された古市博士記念の『砂防工學』がある。

×

金森誠之博士は大正四年に東大土木科を卒て直に内務省に入り、東京土木出張所に於て利根川第二期改修工事に從事し、我國の劃期的河川の大工事により多數の先輩や有能なる同僚諸士と共に貴重なる實際的訓練を経たのであつた。

大正七年に多摩川改修工事に轉じてからは辰馬鎌藏氏の下で其工事の竣工する迄、實に8年間に亘る金森博士の多彩な技術生活が送られたのである。處は東京と横濱間の工業都川崎市に於て、時は歐州大

戰の影響をうけて我國の好景氣時代である。而して此の多摩川改修工事に依つて最も助つたのは川崎市である。川崎市が年々の豪雨で多摩川の出水毎に蒙る被害は甚大なものであつたが、改修工事の御蔭で水害のない立派な今日の工業都市となつたのである。此間に金森博士は歐米に出張して各國の河川工事其他を調査視察し、特殊の學位論文に依つて學位を得、亦川崎市の河港運河の閘門等に特殊の設計と施工技術が發揮されてゐる事は著名な事である。

昭和6年に國道改良第一部長となり、9年に荒川上流改修及下流維持工事主任となり、昭和11年に春木節郎氏が横濱土木出張所長に轉任した後をうけて内務省東京土木出張所に所長谷口三郎氏の下に工務部長となり今日に及んでゐる。

金森博士は内務技師としては最も多彩の人で20年前に既に鐵筋煉瓦の特殊工法を發明して今日に至るまで使用されてゐるが、最近に於ては入間大橋の三叉基礎橋脚及び世界オリンピック用の戸田橋ポートコースの水門及び擁壁等は何れも金森博士の劃期的な案になる新工法として著名なものである。また一方には映畫、音樂其他の社交的趣味に於ても有名な人である。

非常時局下の東北に赴任して、所謂東北振興の國策線上に金森博士の多彩な技術的手腕の現はるゝも近い事であらう。